(312) **我が國第一の瀑布を示せ、**

石狩と十勝の境上に位せる、石狩岳の大瀑布は、直下一百五十丈にして、其幅大間に及ぶと云ふ、之れを熊野の那智瀑布に比するに、實に五十丈の高さを增せり、眞に我が邦第一の名に耻ぢずと云ふべし、

(313) **我が邦第一嚴寒の地は如何、**

石狩川上流の地上に、一月の平均溫度零下一一、六にして、夏時は二〇、〇に達する所あり、其差實に三一、六なりと云ふ、嚴寒も此に至りて極まれりと云ふべし、但し千島列島を除てなりと知るべし、

(314) **札幌と、札幌近傍の景況を記せよ、**

札幌は、北海道廳の所在地にして、本道第二の都會なりとす、人口三萬五千に餘り市街の殷賑、商業の繁盛、實に驚くばかりなりと云ふ、特に農學校炭礦鉄道會社、北海道製糖會社、札幌麥酒會社、北海道製麻會社等の大會社、大學校ありて、札幌の繁榮を助くる、少からずと云ふべし、交通は、小樽より來れる鐵道は、此地を過ぎて更らに東進し、遂に膽振の室蘭に通ずるを以て、非常なる便宜あると云ふ、而して札幌四近の地には、農場甚だ多く、甘菜の栽培頗ぶる盛んなりと云ふ、市の南二里許りに、眞駒内と云ふ所あり、廣大なる育種場ありて、牛馬の牧養甚だ盛大なりと云ふ、此の外林檎、葡萄等の栽培を主となす所もありて、其業頗ぶる盛んなる模樣なり、

(315) **北海道の石炭鑛を記せよ、**

石狩國には炭礦甚だ多く、空知炭山、都春別炭山、幌内炭山等の如き有名なる良質の物を出せり、是れ日追ふて盛大に赴く所以なりとす、

(316) **天鹽の山川都邑產物を記せよ、**

天鹽は、石狩の北方に隣れる土地にして、西は一帶海波に洗はれ、東北はずべて山脈に由りて北見と限り、東南も亦高峻なる山脈を以て石狩と界せり、故に國内の水流はすべて西北に向て流下せり、山の最高なるものは天盤岳にして、河の最大なるものは天鹽川とす、天鹽川は天鹽岳(東南境上にあり)の近傍に發し、東北山脈に平行して西北流し、遂に天鹽村に至りて海に入る、海岸は絕へて屈曲なし、故に亦從て良港に乏しく、唯增毛の一港國中唯一の良港と稱せらる、是れ小樽との交通頻繁なる所以なりとす、沿海の地、鰊の漁獲甚だ盛んにして、留別、增毛の地方殊に有名なりとす、又昆布の產出も、到る所の沿海に見ざるとなしと云ふ、

(317) **北見の山川都邑產物を記せよ、**

北見は、本道の最北端に位せる、狹長なる土地にして、東北方は一帶「オコツク」海

に面し、西南の境上ははすべて山脈を以て限らる、故に川流は皆東北せり、されどもと狹長なる土地なるを以て、長大なる川流は一水もなし、中に就きてやゝ大なるものを擧ぐれば、網走岳に發する網走川のみなりとす、而して此の國の都會とも云ふべきは、宗谷、枝幸、紋別、常品の四所にして、宗谷は船舶の碇泊に宜しく、枝幸は砂金の採取に名高く、紋別と常品は漁樓に有名なる所なりとす、而して國の東北に當り、長く海中に斗出せるものは知床岬にして、西北端なる宗谷岬に對し、放大なる北見灣を形成せり、此の間の海は、一帶に鮭と鰊の漁場なりとす、

(318) **北海道第一の湖水は如何、**

北見の猿間湖は、周圍凡そ十五里ありて、本道第一の大湖と稱せらる、之れに次ぐは同國の網走湖とす、

(319) **膽振の山川都邑產物を記せよ、**

膽振は、噴火灣に臨める狹長なる國にして、國の東端なる室蘭岬は、渡島の砂崎と遙かに相對して噴火灣の門口を扼せり、室蘭岬の西北なる小蘭内に、軍港を以て有名なる室蘭港あり、港内水深くして大船を泊すべく、炭鑛鐵道の支線實に此の地に起れり、故に百貨輻湊して市況甚だ繁盛なりと云ふ、國の東北に當り耕作に適せる地方あり、之れに灌漑するは千歳川にして、其流末石狩に入りて夕張川と合し、石狩川に合して海に入る、有珠湊は國の西北部にある要港あり、有珠山其北にありて噴火せり、

(320) **日高の山川都邑產物を記せよ、**

日高は、西は膽振に界し、東北は山脈を以て十勝と接し、南方一帶は日高海に面せり、河流は、國の幅員廣からざる爲め、すべて細流にして大河なし、是れ東北方なる日高山脈に發源し、西南流して日高海に注ぐ故なりとす、海岸は、一帶單一にして屈折なく、港灣の碇泊すべきもの甚だ少なしとす、而して東南海中に突出したる所は、襟裳崎と云ひ、燈臺の設けあり、此の崎の東北十勝に連れる海岸は、昆布と鮭の收獲甚だ多き所なりとす、又此の崎の西北端振の境に至るまでは、多くアイノ人の占領する所漁區にして、日本民族の之れと同居して利を爭ふものも、亦少なからずと雖も、多くは彼等の占領に任せ置くものに似たり、氣候は黑潮の海岸を洗ひ去るが爲め、至りて温暖にして農作に適せり、且つ此の國は甚だ牧草に富めるを以て、大なる牧場を有せるもの甚だ多し、新冠地方殊に然りとす、

(321) **アイノ人の多く住する所を記せよ、**

(321) **アイノ人の風習を記せよ、**

北海道に於て、アイノ人の多く住める所は、日高國なりとす、故に邦人の日高に往くものは、彼等を華客にして以て、利を貪らんとするが爲めなりとす、今アイノ人の風習を記して、注意する所あらんに、すべてアイノ人は、男女共に髪を被むり、多く徒跣にして袴を左りにせり、其衣服重もに「アツシ」を用ひ、又熊、鹿等の毛皮を用ゆるものあり、男子は常に弓箭と銃砲を携へ、山河を跋渉して以て漁獵に從事せり、而るに女子は必らず家に在りて、衣服を調理するとなり居れりと云ふ、

(322) 十勝の山川都邑產物を記せよ、

十勝は、日高の東北に在りて、不正方形の如き形狀を爲せる國なり、西北は、一大山脈を以て石狩に界し、西南は、東北山脈を以て日高に接し、東北は、綿々たる小山脈を以て釧路と限られ、東南一帶は、太平洋の巨浪に浴し、昆布と鮭の收獲頗ぶる多し、海岸は、絕へて屈曲なく、從て港灣に乏し、內地は平野と山岳と相半はし中央以東は十勝川の灌漑する曠原にして、以西は山岳起伏して平地希れなり、十勝川は、石狩の境上に在る十勝岳に發し、南流して西部の諸川を合はせ、東に折れて然別川を合はせ、國の中央部に至りて音更川と會し、又進みて利別川を合はせ、東南流して二派となり、遂に大平洋に注げり、十勝は此の國の市街の地にて、中央海岸のやゝ釧路に近き所にあり、又十勝川の河口に大津あり、是れ亦此の地方と都會

と稱せらる、產物は、魚類と海草の外、著るしき物あるを見ず、唯曠漠たる原野に牛馬を放養して、盛んに牧畜に從事するものありと云ふ、

(323) 釧路の山川都邑產物を記せよ、

釧路は十勝の東北に在る、不等邊三角形をなせる國なり、北方は千島帶火山脈を以て、根室と北見の二國に接し、西南方は小山脈を以て十勝に限られ、南方は一帶に太平洋に面せり、海岸は、東部半面は屈折多く、西部半面は出入更らになし、故に厚岸の如き良港も(厚岸灣の東岸にあり)、濱中の如き港灣も、皆東海岸地方にあり、釧路は厚岸の西方にある都會の地にして、國中一の繁華と稱せらる、國の西部に雄阿寒と雌阿寒の二岳あり、雌阿寒岳の東に阿寒湖あり、之れより發ずる川を阿寒川と云ふ、釧路川は又、北見の境上に發ゆる釧路岳の、南方にある釧路湖より發し、南流して阿寒川を合はせ、釧路を過ぎて海に入る、釧路湖の東方に硫黃山と稱する山あり、硫黃の產出甚だ多く、鐵路に由りて釧路川の中流なる標茶に輸送され、夫れより船に由りて釧路に送り出さるゝと云ふ、此國も亦海產物の收獲甚だ多く、諸港に由りて他に輸出せらるゝもの、年々少なからざる高なりと云ふ、

(324) 根室の形勢と都邑產物を記せよ、

根室は、本道東北部の、末端に位せる土地にして、西南方は千島帶火山脈を以て、

鉄路と北見の二國に接し、東北方は、根室海峽を隔て、千島の國後島と相對せり、殊に納沙布岬の北方なる、根室灣に臨める根室港は、此の國唯一の都會地たるのみならず、千島諸島へ航行する船の、必らず寄航すゝき咽喉地たるを以て、市況の繁盛なると、多く見ざる程なりとす、故に根室半島の尖端なる、納沙布岬にも燈臺の設けあれば、根室港の前面に當れる、辨天島にも燈臺の設けあるなり、産物は、海産物の外、取り立てゝ云ふべき程の品なし、

(325)(326) 千島諸島の形勢を記せよ、

總面積は如何、

千島諸島とは、根室に近き國後島より、斜めに東北方に向ひて蜿蜒せる、大小三十二個の島嶼の總稱なりとす、而して其極東端の占守島は、魯領「カムサツカ」と一葦水を隔つるのみなりとす、全諸島の總面積は、一千〇三十三方里余あり、唯近海は霧深く波荒らく、海岸は斷岸絶壁にして投錨に便ならざるを遺憾とするのみでまる

(327) 千島諸島の氣候と海産物を記せよ、

千島諸島の氣候は、邦人の到底想像し得る所にあらず、されど吾人の生活上に、困難なりとの斷定は下し難きなり、是れ郡司大尉の一行が、曾て實驗せし所にして、今驗に占守島に居住しつゝあるに徴して明瞭なる事實なりとす、海産物は、海獸を

始めとし、魚類海草の如きに至る迄、今諸島至る所として、豐富ならざるはなしと云ふ、今年の我が帝國議會に於て、千島諸島を北海廳より分離し、更らに相當なる官衙を置きて、拓殖の道を計らんことを建議せるものありと云ふ、北門の鎖鑰、豈に忽諸にすべけんや、

(328) 千島諸島を南北に分つ海峽と、南北千島諸島の島名を記せよ、

千島諸島のやゝ中央なる所に「ボーソル」海峽と稱する、幅廣くして最も深き海峽あり、是れ千島諸島を南北二部に分つ境界なりとす、而して南部にありて有名なるものは、色丹、國後、擇捉、得撫の諸島なりとす、又北部に在りて名高きものは、新知、恩爾、古丹、幌莚、占守の諸島とす、

(329) 色丹島の形勢を說き、傍ら地味に及べ、

色丹島は、根室の東北六十里許りの海上にあり、面積至りて小にして、世人を喚起するに足らずと雖も、地味腴腹にして耕作に適し、山谷には樹木繁茂し、以て家材に供すべく、以て薪炭の用に充つべし、殊に狐、兎、野鼠の如き野獸や、鴨、鷗、白鳥の如き鳥類多く、且つ海産物にも亦豐富なれば、吾人の移住すべき島は、當さに此の島にあるべきを知るなり、況んや四周の海岸に良港多く、船舶の投錨に頗ぶる便なるの利あるに於てをや、

(330)
國後島の形勢は如何、

國後島は、根室の地を去る海上九里に過ぎず、故に千島列島中に在りて、尤も本島に近さものは、此の島を以て最となすなり、されど島内土地磽确にして、耕作に適する所なく、且つ山岳縱横に連亘して、七千尺に餘る高峯を爲すに至れり、西南端根室に近き所に、泊と云へる港あり、又東北端の一角は、之れを阿吐江也岬と云ひ丹根萠海峽を隔て、擇捉島と相對せり、此の島も、敢て海産物に不足なりと云ふにあらぬど、四邊岸高く波荒く、且つ内地の磽确甚しきを以て、唯小數の内地人の、アイノ人と共同して、漁獵を營むを見るのみなりと云ふ、

(333)
擇捉島の形勢を記せよ、

擇捉島は、國後の東北に位する大島にして(國後を去る八里余の所に在り)、其長さは六十里に餘り、幅の廣き所は十里に達せり、島内一聯の山脈ありて、高山峻峯甚だ多く、且つ三坐の活火山ありて、盛んに噴火しつゝあり、南方に一良港あり、丹根萠と云ふ、頗ぶる投錨に適せり、島内硫黄鑛に富み、盛んに採掘しつゝあるものあり、地味は肥瘠相半ばして、移住するに可なる平原多し、東北擇捉海峽を隔て、得撫島と對せり、

(334)
得撫島の形勢を說け、

得撫島は、擇捉島の東北十數里の海上にあり、地味肥沃にして耕作に適し、且つ樹木あり、牧草あり、海獺、海馬、千島に有名なる赤鱒を産す、東岸の中央部に小船港あり、水深くして船舶の碇泊に適するも、東風來るときは風波荒れて、暫時も止まるとを得ずと云ふ、島の南部の、擇捉海峽に臨める所に一村落あり、異人種住めり、之れを「アレウート」人と云ふ、數十人の團結に過ぎざれとも、能く漁獵を務めて其体面を保ち居れり、

(335)
「アレウート」人とは如何なる人種ぞ、其風俗を記せよ、

「アレウート」人と稱するは、往時魯政府の此の地を領せしとき、盛んに移住せしめし所の人種にして、黑髮にして黑瞳、毫も歐人に似たる所なきも、風俗はすべて洋風に倣へ、粗製の麵麭を食し、魚肉を以て副食物となし、且つ猛烈なる酒を嗜めり家屋の製造は甚だ異風にて、大抵地下五六尺を穿ち、を柱を建て(柱は流木を用ゆると云ふ)草葉を葺き、土を以て其上を被へれ、言語は能く露語を解し得るも、文字を讀み得るものは、絶へてなしと云ふ、蓋し最初は、此の如く少數にあらざりしならんが、我が邦の領土となるに從ひ、家を壁ゲて其生國に立ち歸りしなるべしと思はる、何故となれば、各島其家屋の跡、歷然と存し居ればなり、

(336)
新知島の形勢を說け、

新知島は「ボーツリ」海峡を隔てゝ遙かに得撫島と相對する島にて、其長さは二十七里ありて、其幅は大約五里ありとす、四面岸高く波荒らく、唯東北に「プロウトン」と稱する一良港あるのみ、されど港口は甚だ水浅くして、且つ海底に暗礁多きを以て、船舶の出入頗ぶる危險なりと云ふ、港の南方に清泉の涌出する所あり、島民之れを圍みて住せり、産物は、海産物の外に、狐、瀨獺、海馬、野鼠等なりとす、住民は「アレウート」人數十人に過ぎず、島内大木に乏しきを以て、土人は流木を以て建築材に供すると云ふ、

(337) 恩根古丹島の形勢を説け、

恩根古丹島は、新知島を去ること甚だ遠し、島の長さ大約二十四里ありて、廣さは五里より十里の所ありと云ふ、南海岸は、港灣の出入極めて多く、漁舟の碇泊所甚だ多し、北海岸は、單一にして屈曲なし、島中山脈連亘し、峻山高峯亦多し、此島には、もと「アレウート」人の移住するもの甚だ多數なりしが、樺太と千島と交換後に至り、皆去りて止まらざりしと云ふ、

(338) 幌筵島の形勢を説け、

幌筵島は、恩根古丹島の東北十數里の海上に在る大島にして、島の長さ六十里ありて廣さは平均十四里に過ぎず、東北方の海岸、占守島と相對する所に、乙登前と云ふ小港あり、港内水深くして舟を泊するに足れり、且つ清流あり、汲みて飲用に供すべしと云ふ、

(339) 占守島の形勢を説け、

占守島は、幌筵島の東北近き所にあり、其海峡を小千島海峡と言へり、島内平坦にして池沼多く、且つ樹木(石南木、檜の類)牧草に富み、鱈、比目魚、鮭、赤鱒、昆布を産出すること頗ぶる夥しく、島の南方小千島海峡に臨みて、良港あり、慈母稱港と云ふ、此の島は、唯北海道の極先端の島たるのみならず、實に我が日本帝國の領土の、最東端たるの土地なりとす、故に千島海峡を超ゆれば、即ち魯領「カムサツカ」半島の南端、「ロパトカ」岬なりとす、是れ郡司大尉一隊の志士の、決死此の島に移從せし所以なりとす、

(340) 千島土人の風習を説け、

千島にはもと住民なかりし、而るに之を千島土人と云ふものは、長く千島に住して土着の人民となりし故なり、其人民を何者かと云ふに、「アレウート」人に外ならざるなり、前にも已に記せし如く、「アレウート」人は黑髮黑瞳にして、「アイヌ」人と相去ること遠からず、且つ其言語も大ひに相類して大差を見ず、又定居して一定の職業と云ふものなく、而して夏日に至れば近海に出でゝ海獺を獵し、冬日となれば居

島に歸りて狐を獵り、以て毛皮を取りて魯商に賣り、日用品を買ひ取ると云ふ、併し此の土人は到る處の島に居住し居ると云ふにあらず、又其數甚だ少數にして、眞に憫れむべきの境界なりと云ふ、

(341) **阿賴渡島の形勢を記せよ、**

阿賴渡島は、我が日本帝國領土の、最北端の土地にして、實に北緯五十度五十六分の所にあり、幌筵、占守兩島に西北方に當れり、四邊皆斷岸絶壁にして、舟の寄航すべき所なきのみならず、島内樹木至りて稀れに、到底人間の生息し得べき所にあらずと云ふ、

第十一章　臺灣諸島

(342) **臺灣諸島の我が版圖に歸せし所以を說け、**

臺灣諸島は、清國政府の所領にして、素より我が國の版圖にあらず、而るに明治二十七年、二十八年の日清戰爭の結果、清國政府の賠償として、我が帝國に與へし所なり、故に國民中には、今日も尙ほ敵意を含み、動もすれば兵及に不平に訟へ、以て我に抗せんとするものあり、殊に兇惡無類の土匪と稱するものあり、慘酷猛獰なる生蕃と號するものあり、若し我が治にして宜しきを得ずんば、將さに大に恐るべきの憂ひ來らんとす、畏れて怖れざるを得んや、

(343) **臺灣の形勢と區劃を示せ、**

(345) **其島の廣袤は如何、**

臺灣は、琉球の南方より其端を起し、南方は、米領比律賓群島と「バーシー」海峽を隔てゝ相對し、西方は又臺灣海峽を隔てゝ、清國福建省と相望め り、其長さは九十五里にして、其幅は三十五里あり、而して島の中央を南北に亘る大山脈あり、之れを新高山脈と云ふ、其脈中に、峻山高峯多く、南部に屬するものは、凡そ九千尺の高度を有し、北部に在るものは、凡そ一萬尺の高度を有するものあり、而して中央よりやゝ南部にある高峯を、新高山と稱し、一萬三千八百尺の高さを有せり、是れ我が土中にありて、最高なるものと稱せらる、又其比にある高山を、「シルビヤ」山と云ふ、一萬二千八百尺の高さを有し、我が領土中第二の高山と稱せらる、（富士山は、第三番目に在る高峯となる）、故に島内は此の山脈の爲めに東西に兩分せられ、西部と東部の兩部となれり、而して東部は即ち生蕃地にして、其内部の模樣未だ判然せず、其西部は即ち臺西平原地にて、親しく我が治下に在るものなりとす、區劃は臺北、臺中、臺西の三縣に、宜蘭、臺東、澎湖の三廳に分かれ、臺灣總督府之を統括せり、

(346) **臺灣の海岸のありさまと黑潮の關係を說け、**

海岸は、概して屈曲出入少なし、而して東海岸は、一帶に懸崖絶壁にして、良泊地至りて希れに、且つ波浪高〳〵して航行に不便なり、西海岸は之れに反し、低地深く海中に入り、沿岸一帶遠淺にして、泥沙の爲めに港口を塞がるゝに似たり、されど幸ひに港灣所々にありて、航行の便言ふばかりなし、而して沿海に、赤道地方より來る暖流あり、島の南端に於て二派に分れ、一は臺灣海峽を通過して黄海に入り、一は東岸一帶の地を洗ひて北東に流れ、終に本州の南岸に達せり、黒潮即ち是れなり、

(347) **臺灣の氣候如何、**

氣候は、すべて暖熱にして、本邦に比すればやゝ凌ぎ難き感あるも、所に由りて差違あるを免れず、南部に於て二十五度の時に、中部にては二十三度を示し、北部にては二十二度を示せり、最も南部地方は、熱帶國の内にあるを以て、やゝ炎熱に過ぐるに似たるも、他の熱帶地方の如く、炎熱の甚しからざるは、全く四面海に圍まれ居るが爲めなりと云ふ、而して温度の尤も低きときは、二月にして、七月に至れば三十六七度の最高に達せり、つまり夏期は非常に長く、冬期は甚だ短かしと云へば可なり、

(348) **臺灣各地の雨量は如何、**

(348) **風の有無如何、**

雨量は、概して多き方なり、且つ晴雨常に定らざるかの感あり、特に西北部地方は一帶に多雨にして、冬より春に至る間と、夏より晩秋に至る間は、多雨の氣節なりとす、而して南半の熱帶地は、五月より九月に至る間は、雨節にして、其餘は乾節に屬せり、風は年中吹かざる時なく、特に十一月頃は、北東風最も強くして、海上平穩を缺き、舟行危險なりとす、八九月の交、内地に襲ひ來る颶風は、臺灣を通過するもの多しと云ふ、

(350) **臺灣の平地に屬する産物を記せよ、**

氣候と地味の關係に由り、産物は甚だ豐富なりとす、而して農産物にありては、米最も多く、甘藷、藍、烟草（良品なり）、大豆、小豆、落花生、鳳梨等少からず、輸出品の大なるものは、茶と砂糖にして、烏龍茶の名甚だ世界に高し、砂糖の如きは内地にも輸入せらるゝもの頗ぶる多し、

(351) **同島山地の産物は如何、**

(352) **野獸は如何なるものを産するか、**

山地には、樟樹を産すると非常に多く、樟腦の産出甚だ多しとす、且つ良材と珍樹

頗ぶる多しと云ふ、獸類には、鹿、猪、豹、水牛、山猫等あり、他は大抵内地と同じ、殊に水牛は、食用にも供すれば、農作にも用ゆると云ふ、礦物は、硫黄、石炭金、銀、銅等を產ず、

(353) **臺灣に住する人民の類は如何、**

臺灣の住民には、三種の別あり(一)は、元と支那本土より移住せしものにして、子孫連綿二三百年居住し居るもの、之を土人と云ふ、多く西部の平地に住めり、(二)は、熟蕃人と稱し、東部の山地と、西部の平地との間に住める人民にて、頗ぶる頑愚なれとも、猛惡慘忍にあらず、(三)は、生蕃と稱し、元來此の島内に居住せるものなり、多く東部の山間に住し、首狩り抔と云ふ蠻風行はれ、人首を多く所持するを以て、名譽となすの風習あり、性甚だ頑冥猛惡にして、敎ゆべからざるの民に似たり、

(354)(355) **臺北縣の山川と都邑を記せよ、**

臺北の市況を記せよ、

臺北縣は、本島の北部を領して、地味の肥沃なる平野の占め居れり、且つ氣候は、臺灣中にありて、清涼なる地方と稱せらる、淡水河は、源を南部の高地に發し、北流して淡水港に入る、上流を大姑陷川と稱し、中流に於て、新店、基隆の二河を合はす、北部に、觀音山、大屯山と云へる二火山あり、臺北は、人口五萬五千を有し總督府と、臺北縣の所在地たり、又混成第一旅團も茲にあり、其外、國語學校等の設けもあり、市街は道やゝ廣くして不潔ならず、鐵道左右に通じて交通甚だ便なりと云ふ、市況甚だ殷賑にして、臺灣第一の都會と稱す、基隆港は、臺北を去る九里の所にあり、本島の門口にして、我が長崎を距る六百三十七浬あり、臺灣鐵道の起點地にして要塞砲兵の營所あり、鐵道に沿ふて桃仔園、中壢、大湖口等の名邑あり新竹は、やゝ繁華なる土地にして、鐵道は此の地を去りて尙ほ南行せり、淡水港は淡水河口に艮港にして、一名滬尾と稱す、清國福州地方に航する要津なりとす、此處より、福州府に至る迄、海底電線の設けあり、

(356) **臺中縣の山川都邑を記せよ、**

臺中縣は、臺灣西部の中央を領し、東方は、生蕃の高地に境して山岳を負ひ、西方は臺灣海峽に面して支那大陸に對し、大甲溪、大肚溪、濁水溪等の諸川、東方高地より流下して、平野の間を過ぎ、西流して海に入る、殊に濁水溪は、其流域甚だ廣く、霖雨に際するときは、河水一面に溢流すと云ふ、臺中は、臺中縣の所在地にして、混成第二旅團の營所あり其北部に大甲、苗栗、後壠等の市街あり、南部に彰化

雲林、他里霧の市街あり、又大肚溪の南方に、鹿港と云へる港あり、清國に渡るの要津となす、又生蕃地の境界に、埔里社と稱する都會あり

(357)(358) **臺南縣の山川都邑を記せよ、**

臺灣府の由來如何、

臺南縣は、臺南の南部地方を領し、東方は、新高山の山脈を以て、生蕃と境し、(新高山、其山脈中に幾立せり)、西方は、一帯に臺灣海峽の海波に浴せり、而して諸溪流は、東方山脈中より西下し來り、滔々として西海に注ぐ、其内の最大なる者を舉くれば、淡水溪と稱する水流なりとす、其河の灌漑する所は至りて廣く、田地の之が爲めに開かれたるもの、幾何なるを知らずと云ふ、臺南は、臺南縣の所在地にして、人口四萬八千を有せり、混成第三旅團も茲にあり、臺南は、即ち元との臺灣府にして、清國の曾て之を領せし時は、全島の首府と定めし所なり、四方高壁を以て圍み、守備頗ぶる嚴なり、往時明の鄭成功も、此の府に據りて全島を管し以て滿清に敵抗せりと云ふ、縣の西に安平港あり、北に嘉義の市街あり、南に鳳山あり、西南に打狗港あり、其南に東港と枋寮あり、而して恒春は、最南端の一都會なりとす

(359) **我が帝國版圖の極南地は如何、**

臺南縣の最南端は、二個の岬角となりて海中に突出せり、南岬及び西南岬是れなり其中間をば南灣と稱す、其海中に「ペールレート」列岩と稱するものあり、是れ實に我が帝國の版圖の極南端にして、遙かに比律賓群島と對する所なり、

(360) **宜蘭廳の形勢を記せよ、**

宜蘭廳は、本島の東部地方の、北方より中央に至る迄の土地を領せり、領内山岳起伏して平地少なく、人口も亦從て寡少なりとす、宜蘭は、同廳のある所にして、此の地方の大都會なりと稱す、其南に羅東と利澤簡と稱する市街あり、其東に蘇澳港あり、是れ東海岸唯一の良港と稱せらる、

(361)(362) **臺東廳の形勢如何、**

生蕃地は如何なる摸樣なるか、

臺東縣は、本島の東、生蕃界一帯の地を以て所領とせり、故に其區域の廣くして何事も不明に屬し居るは、萬止むべからざるの勢ひなりとす、是れ内地は山岳重疊して、深林幽谷侵し入ること能はざるが爲めなりと云ふ、殊に海岸一帯は、斷岸絶壁にして、港灣の投錨すべき所なし、内地の長く不明なるは、治者の罪にあらざるなり、東南は、即ち臺東廳の所在地にして、守備隊の屯營と、國語傳習所設けあり

花蓮港は、此の地方唯一の良港にして、船舶の出入絶へ間なし、其北に市街あり、新城と云ふ、亦都會の地たり、

(363) **澎湖廳の形勢を記せよ、**

本島の西方、七十五浬の海上、大小四十餘個の島嶼あり、之れを澎湖列島と云ふ、澎湖廳は即ち、此の列島を支配する官衙なりとす、而して澎湖、漁翁、白沙の三島は、巴狀をなして相對し、中間に澎湖灣を造成して、良碇泊所の地位をなせり、全島樹木に乏しく、又産物少なし、且つ山岳と認むへきもの一もあるとなし、馬公城は、即ち澎湖廳のある所にして、又良碇泊地の稱あり、今要塞砲兵を置きて以て海峽の警備となせり、又漁翁島に燈島の設けあり、

(364) **臺灣海峽の要路とは何を云ふか、**

澎湖列島は、臺灣海峽の要路に當り居るを以て、山川なく、樹木なく、産物少なきにも係らず、衛兵を置きて以て不虞に備へたり、是れ國防上止むへからざるの勢ひなりとす、馬公城の市街より、臺南縣に海底電線を通ぜり、蓋し之れが爲めなりとす、

最近 **日本地理問答** 終

明治三十三年四月廿三日印刷
明治三十三年四月廿六日發行

日本地理與附
正價金拾五錢

著作者 岩手縣陸中國盛岡市外加賀町理小路八十三番戸 河村北溟
發行者 東京市神田區美土代町四丁目五番地 高岡寅次郎
發行者 東京市神田區南神保町十七番地 門部留吉
印刷者 東京市神田區南神保町十番地 三島保太郎
發賣元 神田區南神保町十七番地 中央出版組合
特約大賣捌所 神田東京堂 神田岡崎屋

不許複製

最近問答全書豫告

日本歷史問答　既刊
日本地理問答　既刊
萬國歷史問答　既刊
萬國地理問答　既刊
支那歷史問答　既刊
物理學問答　近刊
化學問答　近刊
動物學問答　近刊
植物學問答　近刊
鑛物學問答　近刊
生理學問答　近刊
數理學問答　近刊